

問 コロナ禍でも対策をとり消防団の訓練を

町長 団長に伝え、期待に応える体制を

コロナ禍での 定例訓練の状況は

問 訓子府消防団のコロナ禍での活動状況は。
答 令和2年度は感染防止のため半数の9回を中止とし演習、歳末警戒、出初式も中止とし安全祈願を実施した。

ないとの認識のもと感染防止対策のため活動を自粛している。災害対応能力を低下させないためにも、緊急事態宣言下においては実災害の対応のみとするが宣言終了後は訓練を実施していく。

緊急事態宣言下での 訓練の実施は必要だ

問 災害現場に行ったりききに団員が戸惑うことのないように気持の安心のために緊急事態宣言下でも対策をとった訓練を行っているだろうか。
答 そういう指摘があったことを団長に伝える。組織として弱い部分を克服していくことは団の方が認識していると思う。より一層消防団が期待に込めていくことを努めていただくこと

大変でしょうが、やらなければならぬと思う。

消防団はクラスターの発生はあつてはならないとの認識のもと感染防止対策のため活動を自粛している。災害対応能力を低下させないためにも、緊急事態宣言下においては実災害の対応のみとするが宣言終了後は訓練を実施していく。



よこ 龍二 議員

消防議員で元団員だから
「感謝します消防団」

問 訓子府町にとってメロンの位置付けは

町長 「くんねっぷ」と名の付く唯一の特産品



問 生産者減・生産高減の現状認識と今後は。
答 令和2年度の販売量はピークの平成10年度と比較して22%程度まで落ち込んでいる。

3年度以降の施策については、生産者などの話し合いでも具現化は困難という結論に至った。

問 訓子府の特産品としての灯を消してはいけない。町として公設民営でメロンを作り、これを進めない限り未来はないと思う。
答 町として振興する必要性はある。貴重な意見として受け止める。

問 町が公設としてやれば、働くメロンの職人はたくさんいると思う。メロンを維持するために公設でやる気概を持ってほしい。
決断のときだと思つ

答 同様の気持ちを持っている。匠がいなくなっている、時間がなくなり、今後どうするかを行政と経済団体が皆で創っていく。その機会をつくっていかなくてはならないと思う。

公設民営ができるかは別として、可能性をさらにつめていきたい。

10メモ 公設民営方式

町が起債や交付金などにより資金調達し施設の建設を行い、運営業務に委託しては民間業者に委託する方式です。

